

事例レポート(例)

〇〇市立〇〇小学校 氏名 〇〇 〇〇

○対象児童

- ・ Aさん 1年生 女児 (他校通級)
- ・ 生育歴 喃語(0歳10ヶ月) 1語文(2歳6ヶ月) 2語文(4歳)
頸の据わり(1歳0ヶ月) つかまり立ち(1歳6ヶ月) 歩きはじめ(2歳)
- ・ 教育歴 A療育施設(3歳~5歳)
- ・ 相談歴 B相談所(3歳時、判定「自閉的傾向」)
小児発達外来(平成〇年〇月、4歳時、診断「広汎性発達障害」)

名前はイニシャル不可。他校自校別を。

施設名も伏せて。

○初回相談時(就学時健診から)

- ・ 主訴「ことばがうまく話せない。サシセスセトがタチツテトになる」
- ・ 検査時概要

診断がある時は期日、機関を含め、正確に書く。

「ことばのテスト絵本」の「自由表現」では、「わからない」という反応が多く、行動観察や他機関情報から、場面の状況や登場人物の顔の表情が読み取れない様子。

構音検査では、サ行がタ行、シシャシュショがチチャチュチョに一貫して置き換わり、被刺激性もなかった。

「あっちむいてほい」では、簡単なルールの口頭説明が理解できない様子で、何度かやってみせると理解したようす。しかし、勝ったのに首をふるなど、手順の遂行に何度もエラーが起こる。

しりとりあそびは可能で、語音逆唱も3音節までで可能だが、時々選択音を間違える。

親指と人差し指を対向させる運動模倣ができない、しても指先同士がずれる、サイコロを振るとき手首が回旋しない、舌を鳴らすなどの舌運動模倣ができないなど、運動面にもぎこちなさがある。

○現在の様子

- ・ 構音の誤りには変化がないが、発語が増え、学校であったことを断片的だが報告するようになった。
- ・ 不器用さも変化がない。

- ・ WISC- (VIQ72、PIQ66、FIQ66、言語理解 67、知覚統合 61、注意記憶 100、処理速度 94、知識 6、類似 4、算数 10、単語 4、理解 4、数唱 10、完成 5 符号 10、配列 3、積木 3、組合 20、記号 8、迷路 9、 6歳0ヶ月時)

WISC を載せる時は、VIQ、PIQ、FIQだけでなく、群指数、下位検査もできれば入れる。

○学級担任の情報

- ・ 休み時間は一人で本を読むなど、他児と遊ぶことが少ない。ルールのある遊びが苦手。
- ・ 特に算数はよくできるが、文章題になると苦手。
- ・ 体育が苦手で、なかなかやりたがらないことがある。
- ・ 発音のことでは周りに指摘されることが4月にあったが、その後はない。

学級担任の情報は必須。情報がなければ、連絡をとってみてください。

○指導の経過

- ・ 自由遊びによるラポート形成(ポケモンのおもちゃで遊ぶなど)
- ・ 舌の運動模倣、一般的な口腔機能訓練
- ・ サ行とタ行の聞き分け練習

○話し合っ欲しいこと

- ・ 直接的な構音指導を開始すべきか、経過を見るべきか。
- ・ コミュニケーションのつまずきをどうサポートすればよいか。

分かる範囲で記入して下さい。 保護者の同意を得てください。